

はしかは、麻しんウイルスに感染しておこる感染症です。その感染力は強く、はしかに対する免疫がないと、同じ空間にいただけでほぼ100%感染してしまいます。感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水など風邪のような症状が出ます。2～3日症状が続いた後に、突然39度以上の高熱と全身に赤いブツブツが出ます。そのため、発症早期は、はしかにかかったことがわからずに、周りに感染を広げていく危険があります。



《怖いはしかの合併症》

はしかには、根本的な治療がありません。1000人に1人は脳炎を起こし、命に関わる状態になります。なお、妊娠中にははしかにかかると、流産や早産を起こす可能性が高くなります。また、10万人に1人の割合で、はしかの治療後、数年から10年ほど経ったところで、亜急性硬化性全脳炎という病気を発症することがあります。こちらも、根本的な治療が確立されてない難病の一つです。



《はしかの予防》

はしかは、ワクチンで予防が可能です。現在は、1歳および小学校入学前の2回定期接種を行っています。はしかにかかるリスクがある人は、1977年より前、はしかの予防接種が定期となっていなかった方々と、1978年以降の2回目のワクチンを受けてない方々です。また、はしかのワクチンは生ワクチンなので、妊娠中はワクチンを打つことはできません。

《日本の現状》

現在日本は、国内で発生するはしかが撲滅されている「はしかの排除国」として、世界保健機構（WHO）に認定されています。しかしこれは、海外からはしかにかかった人が来日した場合、簡単に感染が広がる状態ということですから安心はできません。2018年度は、海外ではしかにかかった人が帰国して周囲に感染を広げ、沖縄や名古屋で大きな問題となったという事例もありました。はしかは普段の予防が一番大切です。周囲

に感染が広がるとワクチン不足になることもありますので、はしかにかかったことがあるのか、予防接種を受けているのか、早目に確認されることをお勧めいたします。そして、もし、はしかにかかっていない、ワクチンを受けていない場合は、早目に医療機関にご相談ください。

マミー薬局